１０月定例記者会見の概要

１　日　時　令和７年１０月６日（月）１０時００分～１１時００分
２　場　所　本庁舎３階　第一会議室
３　出席者　**＜報道機関＞**

① 河北新報社　南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
② 朝日新聞社　南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
③ 読売新聞社　南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
④ 福島民友新聞社　相双支社（南相馬記者クラブ会員）
⑤ 福島民報社　南相馬支社　（南相馬記者クラブ会員）
⑥ 時事通信社　福島支局（南相馬記者クラブ会員）

計　６　社

＜　市側　＞

・市長・総務部長
（テレビ会議）
・新田副市長・常木副市長・教育長
・小高区役所長・鹿島区役所長・復興企画部長
・復興企画部政策担当理事・市民生活部長
・健康福祉部長・こども未来部長・商工観光部長
・商工観光部企業立地担当理事・農林水産部長
・農林水産部政策担当理事・建設部長
・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計　１９　人

（司会進行）秘書課長
（会議記録）秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、各地の台風被害についてです。

９月は台風による大雨や突風が各地で発生し、東日本大震災時をはじめ、これまでに多くのご支援をいただいてきた静岡県牧之原市や台湾において、大きな被害が確認されました。被害に遭われた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

市では、牧之原市から、災害時相互援助に関する協定に基づく職員の派遣要請が寄せられたことを受け、被害家屋の調査のために、９月１５日に２人、２８日に２人の職員をそれぞれ派遣しました。

また、牧之原市と台湾への支援として募金の受付も開始しました。市役所と小高・鹿島区役所、市立総合病院の窓口に、募金箱を設置しております。市民の皆様からの温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

次に、敬老会についてです。
市は実行委員会と共催で、９月１３日に小高区、１５日に鹿島区、２７日に原町区において、敬老会を開催しました。参加した皆様へ、これまでのご尽力に心から敬意を表するとともに、市政の発展へのご協力に感謝を申し上げてまいりました。

次に、中学生海外研修報告会についてです。
９月２０日、サンライフ南相馬において、８月にオーストラリア海外研修を終えた市内中学２年生１１人による報告会を開催しました。参加した生徒たちは、ホームステイや現地学校訪問などの文化交流体験の様子や、それらの体験から得た新たな気付きなどについて発表を行いました。

次に、東北における宇宙関連産業振興に係る広域連携についてです。
９月２６日、東北経済産業局、ＪＡＸＡの拠点がある宮城県角田市、秋田県能代市、そして宇宙関連企業が集積する本市が連携し、東北地域における宇宙関連産業のさらなる集積と経済波及効果の拡大に向けた検討を開始いたしました。
本検討では、宇宙関連人材の確保・育成、実証試験環境の整備、さらには周辺産業への波及効果などについて協議を進めてまいります。
本市を含む東北地方が、宇宙開発や宇宙利用を支える日本全体の基盤となり、地域経済の発展につながるように取り組んでまいります。

次に、「ロボテスフェスタ２０２５」及びワールドロボットサミットについてです。
９月２７日、福島ロボットテストフィールドにおいて、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構と市の共催で「ロボテスフェスタ２０２５」を開催いたしました。ロボットやドローンなどの様々な展示や普段見ることができない施設をめぐるバスツアーなどを催し、大勢の来場者でにぎわいました。
そして、いよいよ１０月１０日から３日間、福島ロボットテストフィールドでＦ－ＲＥＩの主催によるワールドロボットサミット２０２５が開催されます。地元から出場する「南相馬ロボット産業協議会」の２チームは、優勝を目指して日夜頑張っています。国内外の強豪チームに勝利できるように、市民の皆さんには、ぜひ会場にお越しいただき、熱い声援をお願いしたいと思います。

次に、オープンホスピタルについてです。
９月２８日、市立総合病院において、今年で２回目となる「オープンホスピタル」を開催いたしました。このイベントは、これからの地域医療を担う子どもたちに医療職への関心をもってもらうこと、さらには、住民の方々に市立総合病院をより身近に感じてもらうことを目的としています。会場には、手術や内視鏡検査など、実際の医療現場を想定した体験コーナーなどを設け、４００名を超える市民の皆様にご来場いただきました。地域の皆様に、市立総合病院に関心を持っていただく機会になったと捉えております。

次に、市議会定例会についてです。

９月３０日に第４回南相馬市議会定例会が閉会しました。
この議会では、未利用公共施設等利活用促進条例制定や、令和６年度各会計決算認定、みちのく鹿島球場サブグラウンド整備事業に係る補正予算など、議案３４件について、全て原案どおり可決・認定・同意されました。

次に、こども未来ミーティングについてです。
市では１０月５日、市内の小学４年生から１８歳の皆さんの声を直接寄せていただく「こども未来ミーティングＵ１８」を開催いたしました。
３回目となる今年は小高区で開催し、小学生から高校生までの１９人のこども達が参加しました。当日は実際に小高区を歩き、自分たちが住みたくなるような１０年後の小高区について意見や考えを聞かせていただきました。
こども達からの貴重な意見について、市でどのように取り組めるか考えていきたいと思います。

続いて今後の主な話題について申し上げます。

はじめに、みなみそうま健活ポイントアプリについてです。
本市では、生活習慣病の要因とされるメタボリック症候群に該当する方の割合が高い状況にあります。令和６年度に福島県率医科大学健康増進センターが公表した報告書によると、肥満ＢＭＩ２５以上とみられる市民の割合は１３市中、男性がワースト１位、女性がワースト３位となっています。
こうした状況を改善するため、市民の皆様の健康意識の向上や、定期的な運動などの健康行動の拡大を目指し、１０月１日、「みなみそうま健活ポイントアプリ」をリリースしました。
南相馬市に居住・在勤する１８歳以上の方は無料でご利用いただけます。
アプリの特徴としては、「食事」「運動」「睡眠」「体重」を記録すると最先端のＡＩにより、個人に合わせた健康に関する精度の高いアドバイスが貰えるほか、「歩く」ことで貯まるポイントで、景品が当たる抽選に参加することもできます。
今後、市内の事業所や団体にもアプリの導入を働きかけ、市全体で健康づくりを推進していきたいと考えています。市民の皆さん一人ひとりがアプリを活用し、健康づくりに積極的に参加していただければ幸いです。

次に、レシートチャンスキャンペーンについてです。
鹿島商工会では、１０月１５日から１１月３０日まで、レシートチャンスキャンペーンを行います。これは、市の「活力ある商店街支援事業」の補助金を活用したもので、対象店舗のうち３店舗以上のレシートまたは領収書の合計金額のいずれかで２桁のゾロ目が揃った場合に豪華景品があたるキャンペーンに応募することができるものです。
この機会にぜひ鹿島区で楽しみながらお買い物をしていただきたいと思っております。

次に、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 南相馬についてです。
市では、「こども・子育てにやさしい社会」の実現を目指し、１１月１日に、こども家庭庁と共催でシンポジウムを開催いたします。東京大学大学院経済学研究科教授の山口慎太郎氏をお招きし、「パパの育休で一生が変わる～経済学からみる家族の幸せ～」についてご講演いただきます。会場内では、こども向けのワークショップも開催する予定です。
１０月１０日からシンポジウムの参加申し込みを受け付けます。ぜひご来場ください。

次に、市表彰式についてです。
１１月３日に、令和７年度の南相馬市表彰式を開催します。自治、教育文化など各分野で功労のあった個人・団体が対象で、２５名・７団体が受賞となります。

最後に、秋のイベントについてです。
夏の暑さも落ち着き、文化・芸術の秋を迎えました。市内においては、多くのイベントなどが予定されています。
小高区では、１０月１０日から１３日に「アーティストインレジデンスみなみそうま　群青小高」成果発表展、１１日に「おだか秋まつり」と「おだかつながる市」が開催されます。また、鹿島区では、１９日に「かしま産業祭」、原町区では、１８日に「南相馬市健康福祉まつり」、１９日に「相馬野馬追振興秋季競馬大会」、１１月３日に「あきいち及び交流自治体フェア」が予定されています。
また、地域イベントとして、各生涯学習センターで開催する文化祭に加え、各地区で秋の催しが予定されており、小高区で１０行政区と３地区、鹿島区で８行政区と２地区、原町区で２０行政区と４地区でレクリエーション大会や交流会が開催されると聞いております。
ぜひご友人、ご家族と参加いただき、地域の絆を深めていただきたいと思います。

【質疑応答】
質問１：
１０日からワールドロボットサミットが開催されます。Ｆ－ＲＥＩが創設されてから３年目を迎えますが、地元にとって一番大切になるのは産業化だと思います。この産業化について、市長としてどのような期待をしていらっしゃいますか。
回答１：市長
これまで南相馬市では、ロボットやドローンなど次世代産業への取り組みを進めてきました。最近では宇宙関連分野への関心も高まり、新たな事業が育ちつつある状況です。そうした中で、ロボットやドローンは次の段階として、例えば共同受注体制を取ることができるようなプラットフォームの構築を考えています。
今回開催されるワールドロボットサミットにおいて、市内に関係する２チームが出場します。これらのチームは一社単独ではなく、市内の複数事業所が連携して取り組んでいます。この連携を通じて、共同受注体制や製品開発の試作品製作など、

多くの事業所が協力する新たな仕組み作りのきっかけとなることを期待しています。

今後、Ｆ－ＲＥＩで革新的なアイデアを持つ方が採択されることで、市内の事業者が試作品や製品製作に関与する機会が広がると考えています。その際、アイデアを形にして製品化するプロセスで、市内事業者とのタイアップが進められれば、発注や製作の新たなステージを創出できると期待しています。

質問２：

プラットフォームはまだできていないという認識でよろしいですか。

回答２：市長

例えばドローン開発においては、プロペラを作る企業や塗装する企業など、多くの事業者が関わります。その際に研究者やアイデアを持っている方が、製作に関わる事業者を探し出すケースが大半でした。

そのような中で、２０２０年のワールドロボットサミットでは様々な事業者が連携し、ひとつの製品を作り上げた実績があります。イメージとしては、研究者やアイデアを持っている方が自分達で企業をあたるのではなく、プラットフォームに相談する形になると思います。このような形を、今後目指す方向性の基盤としたいと考えています。

質問３：

市内にある「ゆめサポート南相馬」は、どのような役割を果たしているのでしょうか。

回答３：市長

今回のワールドロボットサミットでは、南相馬ロボット産業協議会から２チームが参加予定です。その事務局をゆめサポート南相馬が担っています。今回だけでなく、市内事業者や新規進出企業に対するサポートも手掛けていますので、地元の産業振興の中心となるのではないかと期待しています。

質問４：

ワールドロボットサミットが数年ぶりに本市で開催されます。ロボットやドローンの国際大会が当市で開かれる意義と効果をお伺いします。

回答４：市長

ロボット・ドローンなど新技術の推進には様々な基盤が必要です。当市にはロボットテストフィールドがあり、福島イノベーション・コースト構想の新産業拠点となっています。さらにその一分野であるロボット・ドローン分野に関して、Ｆ－ＲＥＩが萱浜に拠点を構えたということで、このような地域は日本でもなかなか珍しい地域だと思っています。

そのような中でワールドロボットサミットが開催され、さらに今後、新たな研究テーマを取りまとめる団体が同じ場所に居を構えるということで、日本に誇れる体制ととらえています。こうした体制が、実用化に向けた応用につながることを期待しています。

質問５：

市内への影響や波及効果についてはいかがでしょうか。

回答５：市長

新しい実証事業のアイデアは外部からもたらされることが多いため、まず外部の研究者や技術を持つ人たちに対し、本市では試作品の製作支援からテスト、量産まで総合的にサポートできることをアピールしたいと考えています。

そのためには、市内事業者で意識を共有することが必要です。南相馬ロボット産業協議会のメンバーはこうした意識が高まっているため、同協議会を中心に進めていきたいと思います。また、報道を通じて市民にこうした取り組みを知ってもらうことも重要です。地域での新しい取り組みは、復興に向けた市民意識の向上にも大きなプラス効果をもたらすと考えています。

質問６：

特定帰還居住区域復興再生計画の申請は、認定されたのでしょうか。また、特定帰還居住区域の立ち入り規制の緩和についてはどのようにお考えでしょうか。

回答６：市長

認定され、作業が進んでいると承知しています。立ち入り規制の緩和については、実際の作業範囲や種類が分かれば検討材料になると思いますが、現段階ではその前段階の状況です。

質問７：

特定帰還居住区域の除染はどの程度進んでいますか。また、空間線量率は基準値以下となっているのでしょうか。

回答７：市長

特定帰還居住区域の指定にあたって空間線量率の測定などを行いました。除染が必要な範囲などはまだ詳細に決定しておらず、これから検討する状況です。具体的な数字は後ほど資料を提供します。

質問８：

来年１月の市長選に向けて、今後のご自身の進退で何か決まったことはありますか。

回答８：市長

決まったことはありません。9 月議会でも申し上げましたが、今は目の前のことに取り組む大切な時期だと思っています。おかげさまで 9 月議会では公共施設の利活用や鹿島サービスエリアの件で議決をいただきました。これらについて今やるべきことを進めていきたいと思います。

確かに任期の期限も見えてきていますので、これから関係者の皆さんにいろいろご意見を伺って考えていきます。しかし現在は、それよりも目の前のことに取り組む重要な時期だと思っていますので、そちらを優先的に行っていきます。

以上